

《担当者名》 高橋 由紀 t-yuki@hoku-iryo-u.ac.jp 志水 朱 下山 美由紀 池森 康裕

【概要】

介護理念・倫理を具現化した介護を行うことができ、介護過程を展開することができるよう特別養護老人ホームにおいて介護実習を行う。「尊厳の保持」や「自立支援」をふまえた介護サービスの提供、介護における安全確保とリスクマネジメントについて理解できるよう学習する。

【学修目標】

1. チームの一員として多職種や多機能と連携できる。
2. 施設運営プログラムに参加し、介護サービス全般について理解することができる。
3. すでに学習した知識を統合し、介護過程の立案・展開・評価することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	実習先の理解 担当利用者決定	<p>施設の特色、利用者の特色、職員の職種、施設構造の特色、日課、週間スケジュール、年間行事、地域での役割などを把握する。</p> <p>記録の機能と目的について知る。</p> <p>基礎的な日常生活の援助をしながらコミュニケーションの取り方などの基本的な介護技術を実践する。</p> <p>指導者に希望や想定している介護過程の概要やその考え方を伝え助言を得る。</p> <p>担当させていただく利用者を決定する。</p> <p>カンファレンスを行う。</p>	高橋 志水 下山 池森
2週目	介護業務の理解 担当利用者の情報収集	<p>基本的な日常生活の援助をとおし、利用者の生活支援（介護）の実際を学ぶ。</p> <p>介護職員の業務内容とその役割について学ぶ。</p> <p>職員と行動を共にすることにより、行われている介護を見学し、その行動の意味や根拠が理解できる。</p> <p>日々状況が変化する利用者の観察ができ、記録し報告することができる。</p> <p>観察の技術を用いて、受け持ち利用者を総合的に把握し、介護福祉の視点から生活上の課題を明らかにし、課題の優先度を整理する。</p> <p>多職種の役割をして、医療、福祉、その他の連携方法について学ぶ。</p> <p>カンファレンスを行う。</p>	高橋 志水 下山 池森
3週目	生活支援技術の実践 担当利用者の生活課題の分析と援助計画作成	<p>利用者の観察に基づき、日常の基礎的介護を安全・安楽、自立に配慮して実践する。</p> <p>クラブ活動、レクリエーションなどの意義の理解と活動へ積極的に参加する。</p> <p>課題の優先度を踏まえ、援助目標を長期的、短期的なものとしてあげる。</p> <p>介護計画を作成する。</p> <p>生活の質の向上への工夫を学ぶ。</p> <p>夜間実習を体験し、夜間時の利用者の特徴について理解する。</p> <p>カンファレンスを行う。</p>	高橋 志水 下山 池森
4週目	個別性に配慮した生活支援技術の実践 担当利用者の介護過程の展開	<p>利用者のニーズを考慮した日常生活援助ができる。</p> <p>総合的に利用者を理解する視点に基づき、介護過程を展開する。</p> <p>倫理に基づいて専門援助行為や態度がとれる。</p> <p>カンファレンスを行う。</p>	高橋 志水 下山 池森

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5週目	介護業務における運営管理の理解 担当利用者の介護過程の展開と評価	総合的に利用者を理解する視点に基づき、介護過程を展開し評価する。 通所サービス、短期サービスなどの居宅サービスを通して、地域における施設の役割を知る。 倫理に基づいて専門援助行為や態度がとれる。 介護業務における運営管理について学ぶ。 カンファレンスを行う。	高橋 志水 下山 池森

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表30%、実習の記録、カンファレンス、課題・計画など70%とし、これらの項目を統合し評価する。

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

介護用語辞典を活用する。

【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための領域「介護」の教育内容「介護実習」に該当する。

【学修の準備】

介護実習　・　・　の記録を分析し、課題を明確にする。技術と知識の総合化が図れるよう事前学習を進める。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,3,4

【実務経験】

高橋 由紀（介護福祉士） 志水 朱（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士） 下山 美由紀（看護師） 池森 康裕（介護福祉士・社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護・看護分野の専門職としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。